

大会名 Competition	第36回 能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
NO. M-114	Year Month Day Time 2023 年 5 月 5 日 14 : 15
場 所 Place	能代市総合体育館

発行：能代市バスケットボール協会  
http://ncup.snowland.net



チームA		チームB					
開志国際	<table border="1"> <tr><td>24 1st 15</td></tr> <tr><td>25 2nd 13</td></tr> <tr><td>19 3rd 12</td></tr> <tr><td>29 4th 7</td></tr> <tr><td>0 T</td></tr> </table>	24 1st 15	25 2nd 13	19 3rd 12	29 4th 7	0 T	市立船橋
24 1st 15							
25 2nd 13							
19 3rd 12							
29 4th 7							
0 T							
97 ○		47 ●					

主審:Crew chief  
伊藤 陸哲 岩手  
副審:Umpire  
京極 幸村 秋田  
笹村 英明 秋田  
テーブルオフィシャル:Table officials  
能代市役所

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
4		澤田 竜馬		-	-	-	-	0	0	×	ストーン ライアン		8	2	1	0	1
5	×	中島 遙希	cap	8	0	2	4	0	2	×	平井 琉人	cap	6	0	3	0	1
6	/	フリッシュ ニコラス 聖		5	0	2	1	1	3	/	菊田 瑛暉		5	1	0	2	1
7	/	平良 奏龍		4	0	2	0	1	5	×	諏訪 航平		11	3	0	2	4
8	/	藤山 拓翔		11	0	5	1	1	9		鈴江 昭人		-	-	-	-	0
9	/	遠藤 地紘		7	1	2	0	0	11	/	早乙女 樹生		0	0	0	0	0
10	×	北村 優太		2	0	1	0	1	12	×	白石 楓		6	0	3	0	3
11	/	北本 慶志		0	0	0	0	0	18	/	高木 祐		0	0	0	0	0
12	×	千保 銀河		5	0	2	1	1	24	×	斉藤 海樞		6	0	2	2	3
13	×	平良 宗龍		4	0	1	2	0	34		吉野 結都		-	-	-	-	0
14	×	NNEBUIFE KELVIN CHIEMELIE		16	0	8	0	0	46	/	長島 昊大		3	1	0	0	0
15	/	SANNI OLUWASEGUN FARUK		10	0	4	2	1	51		有村 駿之介		-	-	-	-	0
16	/	矢作 悠吏		11	1	4	0	2	77	/	名古曾 唯斗		0	0	0	0	3
17	/	前田 ヘンリー 有聖		10	0	4	2	1	81	/	川上 颯太		2	0	1	0	2
18	/	小泉 俊介		4	0	2	0	2	91	/	牧 祐獅		0	0	0	0	0
コーチ		富樫 英樹						0	コーチ		斉藤 智海						0
コーチ		津野 祐樹						0	コーチ		星野 拓海						0
合計				97	2	39	13	11	合計				47	7	10	6	18

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3Pポイントシュート 2P:2Pポイントシュート FT:フリースロー F:ファウル

### Score ranking [Team]

1	16	16.49%	NNEBUIFE KELVIN CHIEMELIE
2	11	11.34%	藤山 拓翔
2	11	11.34%	矢作 悠吏

1	11	23.40%	諏訪 航平
2	8	17.02%	ストーン ライアン
3	6	12.77%	平井 琉人

### Score ranking [Game]

1	16	NNEBUIFE KELVIN CHIEMELIE	開志国際	2	11	藤山 拓翔	開志国際	2	11	矢作 悠吏	開志国際
				2	11	諏訪 航平	市立船橋				

ここまで全勝の開志国際と今大会2勝目を狙う市立船橋との一戦。開志国際2-3ゾーン、市立船橋マンツーマンディフェンスでスタートする。

1Q、高さで圧倒的優位を誇る開志国際は#14ネブフィの3連続ゴール下で序盤の主導権を掴む。互いにハーフセットオフェンスからシュートチャンスを得る中、市立船橋が#5諏訪の連続3Pで食い下がるものの、高さで勝る開志国際の壁に阻まれ市立船橋の得点が止まる。残り3分、24-10となったところで市立船橋はタイムアウトを取り、早いバス回しから連続得点するが、結局24-15で1Q終了。

2Q、市立船橋はドライブから勝機を見出そうと果敢に切り込んでいくが、開志国際の高さの前になかなか点差を縮められない。ここから市立船橋のスコアが止まり点差が開いていく。20点差となったところで市立船橋はフルコートプレスから連続得点を挙げるが、その後も開志国際が着実に加点し49-28で前半を終える。

3Q、一気に決着を付けたい開志国際はフルコートマンツーマンからの速い展開で8-0のランを見せる。市立船橋も#0ストーンの3Pなどで食い下がるものの前半同様開志国際の高さの前にシュートを決めきれず得点が止まる。その後は互いにロースコアの状態が続き、68-40で3Q終了。

4Q、互いにターンオーバーが多い上にアウトサイドのシュートを決めきることが出来ず、点差は変わらないまま試合が進んでいく。その後1on1から単発的に得点を重ねるが、高さで勝る開志国際がリードを広げる。結局97-47で開志国際が全勝を守った。

文責 【 山本 太志 】